

青少年の主張

青少年育成町民の集いで
発表された作文です。



『食品ロス』

中日本自動車短期大学 ムハンマド ハサヌッディン さん

留学生の皆さん、日本の生活はいかがですか。おもしろいこともたくさんありますが、きつと大変なことでしょう。アルバイトをしている方も多いと思いますが、留学生にとってはとても大変なことです。JAPAN ASSOCIATION 及び JASSO の調査によると、約74%の留学生がアルバイトをしており、種類別では飲食業がもっとも多く、次いで営業やホテルのフロントなどです。

私も今までいろいろな所でアルバイトをしてきましたが、その中で一番驚かされたことは、厳しさでした。また疑問に思ったことがあります。疑問と言うより怒りにも似た気持ちを抱きました。それは食品ロスです。簡単に言うならば、食べられる食品が捨てられているということなのです。

日本に来てから、日本人はグルメが非常に好きだと感じました。なぜならどこへ行ってもレストランがたくさんあるし、テレビでもグルメ番組がたくさん放映されているからです。日本と言えば、お寿司や刺身など、おいしくて美しい料理がたくさんあることは、世界中に知られています。でも、残念なことに、それほど美味しい料理を作るために、たくさんの材料が捨てられているのです。

JAPAN GOVERNMENT のウェイブサイトによると、日本の食品ロスは、年間約632万トンにのぼります。この632万トンは、1年365日、日本の人口約1億2千万人で割ると、1日、1人、約1.4キロの食品が捨てられているということになります。皆さん、この数字を聞いてどう思いますか。何か感じませんか。

コンビニで働いたことのある方は、毎日どのくらいの食品が廃棄されているか、身をもって知っているのではないのでしょうか。以前私は、お弁当工場、パン工場、レストランや様々な食品製造工場で働きましたが、やはりどこも同じでした。たとえばパン工場では、パンの形がちよつと悪いだけで、捨てられてしまいます。ある日こんなことがありました。店で失敗した料理が捨てられてしまったため、私の友人がそれを食べようとして店長に怒られたのです。日本の皆さんには、貧しい留学生が食べ物をとったように見えるかもしれません。私の国では、食べ物を捨てるのが、大きい罪なのです。

私が子どもの時、ご飯を残すといつても母に怒られました。食べるのできかない貧乏な人のことを考えなさい。お金を稼ぐのはとても大変なことですよ、と。

皆さんも知っているはずですよ。世界

には貧しい国がたくさんあります。1日1回しか食事できない家族もたくさんいます。アフリカには、水を飲むことさえ難しい国もあります。ケニアで研修している友人がこんなことを言っていました。子どもたちが毎朝学校に行く前に、4キロの道を歩いて、水を汲みに行くのだと。このような国がある一方で、日本ではどこでも簡単に水が飲めます。そして、コンビニのゴミ箱の中からは、まだ残っているジュースのペットボトルがたくさん出てきます。

マスコミでは、食品ロスを減らす取り組みが始まっていると報道されていますが、私の経験では、まだ一度もそんな場面に出会ったことはありません。コンビニやレストランは、無駄が出ないように仕入れや食品の扱いを考え直すべきではないでしょうか。工場は、廃棄にならないように、食糧生産の数を減らしたほうがいいのではないのでしょうか。経済効率ばかり優先しないで、社会のことを考えるように変わっていくことを願っています。

そして日本人の皆さんも、日本にいる私たちひとりひとりも、食べ物を粗末にしないように気をつけたいと思います。人間にとって大事な食べ物、食べられる食べ物を捨てないで下さい。

日本から、世界から、食品ロスが減ることを願って。



『自分に与えられた役を 果たすことの大切さ』

中日本自動車短期大学 ^ユ 万松 ^{マンショウ} さん

自分に与えられた役を果たすことの大切さについて話したいと思えます。

今、この場にいる皆さんは、どんな身分で来られましたか。審判員か、先生か、学生か、または弁論大会の参加者ですか。それぞれの身分で、今日は、皆さんの仕事が違うと思います。

中国では、人生はまるで芝居のようだ、芝居は人生のようだ。世のこのできごとはまるで囲碁を打つようだ、囲碁を打つのは世のこのできごとのようだ、という古い言葉があります。

人が生まれてから、死ぬまで、自分が意識しているかどうかに関わらず、自分の舞台で自分の役をちゃんと演じなければなりません。お芝居がお終いになれば、人生も終わります。

私は日本へ留学に来てから、毎日、遅刻や欠席をせずに、ちゃんと学校に通って、勉強しています。ある日、私は履歴書の自己PRをどうやって書いたらいいか悩み、先生のところへ相談に行きました。

その先生から、「俞さんは、毎日ちゃんと学校に来て、出席率もずっと百パーセントですよ。それはなぜですか」と聞かれました。私が「学生

だから、学校に来て勉強するのは当然のことです。遅刻や欠席をしないのは当たり前のことです。」と答えました。「それです。当たり前のことを当たり前にするのが大切なんです。」と、先生から教えてもらいました。

その時、私は初めて今現在の自分の役を果たすことの大切さを意識しました。学校にいる時、私は学生だから、毎日出席して勉強するのは、私にとって当たり前のことです。なぜなら、それは学生の役目だからです。

当然のことですが、私達の役目は、時間と環境によって、どんどん変わっていきます。

私達が生まれた時、私達は親の子供、時間が経つにつれて、好きな人と出会って、結婚すれば、私達は夫か妻に、そして、自分の子供が生まれれば、私達は親になります。このようにして、私達の役目はどんどん変わっていきます。

私は常に考えています、世の中の人々が生まれた瞬間に手に入れた台本をちゃんと演じれば、この世界はもっとよくなるのではないのでしょうか。

この前、ネットで2つのニュースを見ました。1つは「5歳の女の子が両親の虐待の末に死亡した事件」で

す。とても悲しいニュースです。女の子が書き残した言葉の中に「もうお願い、許して、許して下さい」と書いてありました。この言葉は何回見ても、心が痛く、そして、悲しくなります。本来、親から愛されるはずなのに、人間性がない親に虐待されて、なくなってしまうのです。

もう1つのニュースは、ある医者が休暇で海外旅行に行きました。旅行先のビーチで、1人の観光客が突発性心拍停止で倒れました。その医者には休暇にも関わらず、自ら観光客の命を助けました。その後、友人から冗談半分で「ここは病院じゃないから、助けられなかったら、厄介なことになるぞ」と言われたそうです。医者は「私は医者だから、目の前に患者さんがいたら、ほっといては行けない」と答えました。

2つの事件は両方とも命に関する事件ですが、自分に与えられた役目を果たすか、果たさないかの違いで、事件の結果が大きく変わりました。

もし、世の中の人々が、自分に与えられた役をちゃんと果たして、当たり前のことを当たり前にすることを心がけていたら、この世界はもっとよくなると、私は思います。